

# タイアップ! 連携のススメ

福祉事業所が農業に参入する「農福連携」の取り組みが全国的に推進される一方、工業分野では、障害者を受け入れる事業所がまだまだ少ない。背景には、工業の現場は機械操作などの作業も多く、労働災害のリスクを踏まえて、障害者の受け入れに慎重にならざるを得ない現状がある。そんな中、障害のある人に工業分野で力を発揮してもらおうと「工福連携」に取り組む事業所も出てきている。障害者の活躍の場は広がるのか。現状や課題を探る。

(三浦千尋、里村静)

八戸市の就労継続支援A型事業所「ライブワークス」では、自動車や電子情報機器の解体作業を行う現場で、障害のある人を積極的に起用している。障害者の能力を引き出し、活躍の場を広げることが目標。単に技術を身に付けるだけでなく、作業中の事故を未然に防ぐための安全衛生に関する知識や技術を習得することにも力を入れる。工福連携」を掲げる同事業所の取り組みを取材した。

◇ 「障害」とひとことで言っても、その特性は一人一人違う。たとえ時間がかかっても、しっかりと丁寧に教えることで、健常者と同じか、それ以上に仕事を頑張ってくれる。ライブワークスの中里明光代表は、こう実感を込める。

自動車や電子情報機器のリサイクル事業を手掛けるエコブリッジ(同市)の代表でもある中里代表が、障害者の就労継続支援事業を始めたのは2016年。青森県立八戸第二養護学校の生徒をインターンシップで受け入れたのがきっかけだった。同校からインターンシッ

## 福祉×工業

# 障害者の能力引き出す

## 就労支援事業所 ライブワークス(八戸)

## 技術指導 一歩一歩着実に

プの打診があった際、障害のある人が現場で働くことには不安があったという。だが、いざ受け入れてみると、すさまじい集中力であつたという間に作業をこなした。一生懸命に取り組む姿を目の当たりにし、障害者の労働力に大きな可能性を見いだした。

◇ 障害のある人にもっと活躍してもらいたい。中里代表は17年8月、エコブリッジのグループ企業としてライブワークスを設立した。事業所では現在、知的障害や精神障害がある16人が自動車や電子情報機器を解体し、リサイクル部品や鉄、電子基板などに分別する作業に当たっている。



障害があっても、今では事業展開の上で欠かせない存在となっている(エコブリッジ提供)

ライブワークスでは解体やリサイクル作業だけでなく、水産加工や草刈り、清掃など、さまざまな作業を受託している。ほかに、フォークリフト運転技能や、草刈り作業を安全に行うための刈払機取扱作業委員などの資格取得支援にも積極的に取り組む。多種多様な経験を積むことで、自分自身の適性を見つけ、仕事へのやりがいや自信につなげてほしいと考えているためだ。

さらに、評価制度「キヤリアパスプランニング」を導入しているのも大きな特徴だ。作業の習熟度や仕事に向き合う姿勢などを点数化。作業効率や生産性を高めるだけでなく、向上心や自立心



フォークリフトを巧みに操作して行う解体作業。操作技術だけでなく、安全衛生の知識も身に付けている(エコブリッジ提供)

を養うのが目的で、中里代表は「達成度や課題点を『見える化』して分かりやすく伝えることで、やる気や能力を引き出すことができる」と狙いを語る。

◇ 「仕事を覚えるのは健常者より時間がかかるかもしれないが、一歩一歩、着実に積み上げていくことで、健常者と同じように仕事ができる。今では事業展開に欠かせない存在」と中里代表。障害者と共に働くことで、社内の雰囲気も明るくなるなど、ほかの従業員にも良い影響が現れているという。

理解の輪は、社内だけに止まらず、取引先などの企業にも拡大。さまざまな仕事を委託してくれるようになった。

障害のある人の雇用ができなくても、就労継続支援事業所などの施設に仕事を供給するのも障害者支援の一つだ。

地元企業の理解と配慮に感謝する中里代表は「工業、漁業、サービス業など、障害者が活躍できる分野はたくさんある。『障害者だから難しい作業はできない』と決めつけるのではなく、育成のプロセスを丁寧にすることで、頼もしい働き手になる」と強調する。

(三浦千尋)